

# 令和7年用りんご病害虫防除基準

- 農薬を使用する際は、農薬の使用基準を遵守し、適正に使用してください。
- 農薬の使用基準は、農薬容器のラベルに記載されています。使用に際しては、ラベルをよく読んで確認してください。
- この基準は、令和6年10月1日現在の農薬登録内容に基づき作成しています。登録内容に変更が生じた時は、変更された内容に準じて使用してください。

散時	布期	適用病害虫	薬剤名及び濃度 (水100ℓ当たり薬量)	収穫前 使用日数	総使用 回数	散布量	注 意 事 項 (収穫前使用日数、総使用回数)	防除履歴
黒	展葉初期(発芽10日後)	ハダニ類	1. 水(99ℓ) 2. ハーベストオイル100倍(1ℓ)	展葉期後(発芽後2週まで)	—	350ℓ	1. ハダニ、越冬病害虫防除のため、マシン油乳剤の散布は必ず実施する。越冬ハダニの発生が多い場合は休眠期にハーベストオイル50倍(芽出し直前直後、-)を散布する。 2. モモチョッキゾウムシの多い園地では、マブリックEW <sup>®</sup> 2,000倍(30日前まで、2回以内)を使用してもよい。 3. <u>ベフラン液剤25<sup>®</sup>は西洋梨に薬害を生じるおそれがあるので、かからないよう注意する。</u> 4. モリニア病対策としてトップジンM水和剤1,500倍(前日まで、6回以内)またはベンレート水和剤2,000倍(前日まで、4回以内)を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		モリニア病 黒星病	3. ベフラン液剤25 <sup>®</sup> 1,000倍(100ml)	展葉期	6回以内			
病	開花直前	カイガラムシ類	4. アプロードフロアブル1,000倍(100ml)	30日前まで	2回以内	350ℓ	1. ストライド顆粒水和剤に替えて、ICボルドー412 30倍(-,-)を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		黒星病	1. ストライド顆粒水和剤1,500倍(66g)	開花前	2回以内			
重	落花直後	褐斑病	1. トレノックスフロアブル500倍(200ml)	30日前まで	5回以内	400ℓ	1. シンクイムシ類の多い園地では、4月下旬にコンピューザーNを150~200本/10a設置する。(下記「交信かく乱剤」参照)	散布日 月 日 散布量 ℓ
		黒星病	2. カナメフロアブル <sup>®</sup> 4,000倍(25ml)	前日まで	3回以内			
		ハマキムシ類	3. サムコフロアブル5,000倍(20ml)	前日まで	3回以内			
点	落花直後	黒星病	1. トレノックスフロアブル500倍(200ml)	30日前まで	5回以内	500ℓ	1. クレフノンに替えて、バイカルティ1,000倍を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		うどんこ病	2. ミギワ20フロアブル4,000倍(25ml)	前日まで	3回以内			
		アブラムシ類	3. ウララDF2,000倍(50g)	14日前まで	2回以内			
		リンゴワタムシ	4. クレフノン100倍(1kg)					
防	落花10日後	斑点落葉病	1. デランフロアブル <sup>®</sup> 2,000倍(50ml)	60日前まで	3回以内	600ℓ	1. キンモンホソガ発生園地ではエクシレルSE5,000倍(前日まで、3回以内)を加用する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		うどんこ病	2. スコア顆粒水和剤3,000倍(33g)	14日前まで	3回以内			
		黒星病	3. クレフノン100倍(1kg)					
除	落花20日後	黒星病	1. ペンコゼブ水和剤500倍(200g)	30日前まで	3回以内	600ℓ	1. この時期、毛ぶるい期に入り、サビが最も出やすくなるので、乾きやすい時間帯に散布する。 2. クレフノンに替えて、バイカルティ1,000倍を使用してもよい。 3. リンゴワタムシの発生している園地ではトランスフォームフロアブル1,000倍(前日まで、3回以内)を散布する。 4. 斑点落葉病・赤衣病・褐斑病の多い品種では、ポリオキシシンAL水和剤1,000倍(3日前まで、3回以内)を加用して散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		キンモンホソガ	2. ダントツ水溶剤2,000倍(50g)	前日まで	3回以内			
		アブラムシ類	3. クレフノン100倍(1kg)					
6月10日頃	落花直後	黒星病	1. デランフロアブル <sup>®</sup> 2,000倍(50ml)	60日前まで	3回以内	600ℓ	1. ヒメボクトウの発生が多い園地では、6月上旬にボクトウコンーHを100~150本/10a設置する。なお、3年以上連続して使用することで効果が安定する。 2. 極早生品種のある園地ではデランフロアブルに替えて、トレノックスフロアブル500倍(30日前まで、5回以内)を散布してもよい。 3. デランフロアブルに替えて、パスポート顆粒水和剤1,000倍(45日前まで、3回以内)を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		斑点落葉病	2. パレード15フロアブル2,000倍(50ml)	前日まで	2回以内			
		アブラムシ類	3. サイハロン水和剤 <sup>®</sup> 2,000倍(50g)	7日前まで	3回以内			
		キンモンホソガ	4. バイカルティ1,000倍(100g)					
6月20日頃	落花直後	斑点落葉病	1. アントラコール顆粒水和剤500倍(200g)	45日前まで	4回以内	600ℓ	1. 殺ダニ剤を使用する場合は、4日前までに草刈りを終了する。 2. ダニオーテフロアブルに替えて、カネマイトフロアブル1,000倍(7日前まで、1回)を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		キンモンホソガ	2. エクシレルSE5,000倍(20ml)	前日まで	3回以内			
		ハダニ類	3. ダニオーテフロアブル2,000倍(50ml)	前日まで	1回			
		黒星病	4. バイカルティ1,000倍(100g)					

## 耕種的防除

全般	1. 適切な肥培管理等により、樹勢を健全に保つ。 2. 園地の角など薬剤が到達しにくい部分や混み合っている部分の枝はせん除し、葉液が隅々まで到達しやすいようにする。 3. 病害虫は樹上の粗皮や芽の付近に越冬するものが多いので、効率防除を図るため、休眠期防除前に粗皮削りを行なう。
炭そ病	1. 園地周辺のニセアカシヤやクルミ等は、伝染源になるので除去する。 2. 樹勢が弱いと発生しやすいので、樹勢の維持に努める。 3. 休眠期にいは皮病斑を削り取り、削り取った病患部は適切に処理する。
黒星病	1. 発病した葉や果実は、見つけしだい摘み取り、適切に処分する。
ナシカガラムシ	1. 園地周辺の雑木は、寄種(伝染源)になるので除去する。

## りんご施肥基準(成木:10a当り)

品種・目標収量	肥料名	施肥量(kg)	施肥時期	N	P	K
つがる(3,600kg)	フレッシュフルーツ有機80	60~80kg	9月下旬	3.6~4.8	1.8~2.4	1.2~1.6
ふじ(3,600kg)	フレッシュフルーツ有機80	40~80kg	10月上中旬	2.4~4.8	1.2~2.4	0.8~1.6

●<sup>®</sup>印は劇物です。購入の際は印章をご持参下さい。

散布時期	適用病害虫	薬剤名及び濃度 (水100ℓ当たり薬量)	収穫前 使用日数	総使用 回数	散布量	注 意 事 項 (収穫前使用日数、総使用回数)	防除履歴																																			
⑧ 7月 上旬	斑点落葉病 すす点斑病 すす点斑病 炭紋病 キンモンホソガ ギンモンハモグリガ シンクイムシ類 アブラムシ類 リンゴワタムシ	1. 展着剤(アビオン-E) 1,000倍(100ml)	-	-	600ℓ	1. バイカルティはリン酸の含まれる葉面散布剤とは混用しない。 2. 斑点落葉病、褐斑病が多い園ではICボルドー412 30倍(-,-)を使用してもよい。ICボルドー412には展着剤は使用せず、単用で散布する。 3. シンクイムシの多い園では、7月上旬にナシヒメコン50本/10aを追加設置する。 4. ヒメボクトウの被害がみられる園では、7月上旬頃フェニックスフロアブル4,000倍(前日まで、2回以内)を枝幹部に十分かかるようにいねいに散布する。また、ロビンフード(前日まで、5回以内)を樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射する。	散布日 月 日 散布量 ℓ																																			
		2. ナリアWDG 2,000倍(50g)	前日まで	3回以内																																						
		3. ダントツ水溶剤 2,000倍(50g)	前日まで	3回以内																																						
		4. バイカルティ 1,000倍(100g)																																								
⑨ 7月 中旬	斑点落葉病 すす点斑病 すす点斑病 炭紋病 褐斑病 シンクイムシ類 アブラムシ類 ハマキムシ類 カメムシ類	1. 展着剤(アビオン-E) 1,000倍(100ml)	-	-	600ℓ	1. バイカルティはリン酸の含まれる葉面散布剤とは混用しない。 2. 斑点落葉病・輪紋病が多い園ではICボルドー412 30倍(-,-)を使用してもよい。ICボルドー412には展着剤は使用せず、単用で散布する。 3. 褐斑病防除のため防除間隔を10日以上空けない。	散布日 月 日 散布量 ℓ																																			
		2. オキシンドー水和剤80 1,200倍(83g)	14日前 まで	4回以内																																						
		3. ユニックス顆粒水和剤47 2,000倍(50g)	14日前 まで	4回以内																																						
		4. サイアノックス水和剤 1,000倍(100g)	14日前 まで	1回																																						
		5. バイカルティ 1,000倍(100g)																																								
<b>品種ごとの収穫開始時期を考慮し、各薬剤の収穫前使用日数を厳守する。</b>																																										
⑩ 7月 下旬	斑点落葉病 すす点斑病 すす点斑病 炭紋病 褐斑病 キンモンホソガ ギンモン ハモグリガ シンクイムシ類 アブラムシ類 リンゴワタムシ	1. 展着剤(アビオン-E) 1,000倍(100ml)	-	-	600ℓ	1. ビターピット対策として、ストピットII 500倍を加用してもよい。 2. カメムシ対策としてモスピラン顆粒水溶剤に替えて、スタークル顆粒水溶剤2,000倍(前日まで、3回以内)を使用してもよい。  日やけ軽減としてサンバリア1,000倍を葉摘み・玉回し前に2~3回使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ																																			
		2. オキシンドー水和剤80 1,200倍(83g)	14日前 まで	4回以内																																						
		3. モスピラン顆粒水溶剤(劇) 2,000倍(50g)	前日まで	3回以内																																						
		4. オンリーワンフロアブル 2,000倍(50ml)	7日前 まで	3回以内																																						
一 特 別	斑点落葉病 すす点斑病 すす点斑病 炭紋病 褐斑病	1. 展着剤(アビオン-E) 1,000倍(100ml)	-	-	600ℓ	1. 降雨が続く場合は散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ																																			
		2. オキシンドー水和剤80 1,200倍(83g)	14日前 まで	4回以内																																						
⑪ 8月 上旬	斑点落葉病 すす点斑病 すす点斑病 炭紋病 ハダニ類	1. ダイパワー水和剤 1,000倍(100g)	前日まで	開花期 以降 3回以内	600ℓ	1. ハダニの発生が多い園では、下記の殺ダニ剤のいずれかを総使用回数に注意して単用で散布する。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>薬剤名</th> <th>希釈倍率</th> <th>収穫前 使用日数</th> <th>総使用 回数</th> <th colspan="2">使用時期</th> </tr> <tr> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th>7月</th> <th>8月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>マイトコーネフロアブル</td> <td>1,000倍</td> <td>前日まで</td> <td>1回</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ダニコングフロアブル</td> <td>2,000倍</td> <td>前日まで</td> <td>1回</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">オマイト水和剤</td> <td>750倍</td> <td>3日前まで</td> <td>1回</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>2,000倍</td> <td>前日まで</td> <td>-</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> アカリタッチ乳剤 ※アカリタッチ乳剤は、殺卵効果がなく、残効性も期待できないので、5~7日間隔の連続2回散布や、他剤とのローテーションで使用する。	薬剤名	希釈倍率	収穫前 使用日数	総使用 回数	使用時期						7月	8月	マイトコーネフロアブル	1,000倍	前日まで	1回	○		ダニコングフロアブル	2,000倍	前日まで	1回	○		オマイト水和剤	750倍	3日前まで	1回		○	2,000倍	前日まで	-	○	○	散布日 月 日 散布量 ℓ
		薬剤名	希釈倍率	収穫前 使用日数			総使用 回数	使用時期																																		
								7月	8月																																	
マイトコーネフロアブル	1,000倍	前日まで	1回	○																																						
ダニコングフロアブル	2,000倍	前日まで	1回	○																																						
オマイト水和剤	750倍	3日前まで	1回		○																																					
	2,000倍	前日まで	-	○	○																																					
2. テッパン液剤 2,000倍(50ml)	前日まで	2回以内																																								
3. コロマイト乳剤 1,000倍(100ml)	前日まで	1回																																								
⑫ 8月 中旬	すす点斑病 すす点斑病 褐炭病 黒星点 シンクイムシ類 キンモンホソガ	1. ナリアWDG 2,000倍(50g)	前日まで	3回以内	600ℓ	2. りんごの落果防止剤として、ストッポール液剤及びヒオモン水溶剤を使用できる。	散布日 月 日 散布量 ℓ																																			
		2. アグロスリン水和剤(劇) 1,000倍(100g)	前日まで	2回以内																																						
⑬ 9月 上下旬	斑点落葉病 すす点斑病 すす点斑病 キンモンホソガ シンクイムシ類	1. ベルクートフロアブル 1,000倍(100ml)	前日まで	開花期 以降 3回以内	600ℓ	1. シンクイムシ類、ヨトウムシ対策としてフェニックスフロアブル4,000倍(前日まで、2回以内)を加用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ																																			
		2. バリアード顆粒水和剤 2,000倍(50g)	前日まで	3回以内																																						
⑭ 9月 中旬	すす点斑病 すす点斑病 炭紋病 シンクイムシ類 カメムシ類	1. ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍(33g)	前日まで	4回以内	600ℓ	1. ファンタジスタ顆粒水和剤に替えてフリントフロアブル25 2,000倍(前日まで、4回以内)を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ																																			
		2. スカウトフロアブル(劇) 2,000倍(50ml)	前日まで	5回以内																																						
9 一 下 旬	褐炭病 すす点斑病 すす点斑病 黒星	1. ストライド顆粒水和剤 1,500倍(66g)	開花期 前日まで	3回以内	600ℓ	1. 高温時の散布は葉害の危険があるので、気温の低い時に散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ																																			

**落果防止剤の使用について**

落果防止剤	使用時期	注意事項
ストッポール液剤 1,500倍 2回以内	収穫開始予定 25~7日前	単用で散布する。
ヒオモン水溶剤 2,000倍 2回以内	収穫開始予定 21~4日前	単用で散布する。

**交信かく乱剤(シンクイムシ・ヒメボクトウ対策)**

対象病害虫	薬剤名	使用方法
モモシンクイガ ナシヒメシンクイ ハマキムシ類	コンフューザーN	4月下旬にコンフューザーNを150~200本/10a設置し、7月上旬にナシヒメコン50本/10aを追加設置する。
ナシヒメシンクイ	ナシヒメコン	
ヒメボクトウ	ボクトウコン-H	6月上旬に100~150本/10a設置する。なお、3年以上連続して使用することで効果が安定する。

1. 設置場所は、目通りの高さに8割、2割を上部に、園地内均一に設置する。
2. 傾斜上部の設置割合を1~2割多くする。
3. 園周辺の立木や、支柱などにも設置する。
4. 防風ネットなどを利用する。
5. 高温時は成分の揮発が早いので、必要に応じて追加設置する。